

第二十四回

中
初
杯
生
の
会

公
宴

平成30年11月3日(土・祝)午後2時始

喜多六平太記念能楽堂

番組

おはなし

関幸彦(日本大学教授)

狂言

茶壺

野村万蔵

河野晶人
能村佑紀

休憩二十分

能

望月

友枝真也
内田利成
中村邦生

森常好

野村万蔵

友枝昭世
内田安信
狩野了一

國川正博
曾和正博
林雄一郎
松田弘之

粟谷浩之
内田成信
金子敬一郎
佐藤寛泰
友枝雄人
大村靖嗣
香川茂
長島

終了予定時刻 四時四十五分頃

チケット料金

全自由席
(座席指定可/指定料¥1,000)

一般券	正面・脇正面	¥6,000
	中正面	¥5,000
	二階席	¥3,000
学生席(二階席)		¥2,000

チケット販売開始は、9月頃の予定

あらすじ

望月(もちづき)

信濃の国の住人で安田の荘司友春の家臣、小沢の刑部友房は、所用があつて都にいる間に、主人の友春が望月秋長と口論の末殺害されたことを聞く。すぐに帰国の途についたものの、自らの命も狙われていることを耳にした為、帰国できず、近江国守山の宿で甲屋という宿の主人として暮らしていた。また、友春の妻は、夫の討たれた後は頼る者もなかったため、一子花若の手を引いて都に上る途中に守山の宿にたどりつき、甲屋に泊まることになる。かくして主従は奇しくも再会し、涙を流して喜びあふ。そこに計らずも仇の望月秋長が、それとは知らず、都から故郷に下る途中で甲屋に宿を取るようになった。その夜、旅の徒然をなぐさめると称して、友治の妻は盲御前として謡を謡い、花若は鞆鼓を打ち、自らも獅子舞を舞いて興を添え、望月の油断するところを、仇を討つて、めでたく本望をとげる。

茶壺(ちゃつぼ)

梅尾で茶を買い求めた男が、知人の家で酒を振舞われ、すっかり酔っ払って茶壺を背負ったまま街道に寝込んでしまう。そこへ通りかかったすっぱ(詐欺師)が茶壺を盗もうと、さも自分が茶壺を背負っていたかのように背中合わせに横たわる。目が覚めた男とすっぱがそれぞれに茶壺は自分の物だと言い争うところへ、目代(代官)が通りかかり、二人の言い分を聞くのだが、どちらとも判断がつかない。そこで目代は…。茶の産地や明細などを謡い舞うすっぱと男の連舞が見どころ。

*なお、会場での撮影・録画・録音は、堅くお断りします。

又、携帯電話等、音の出る物もご遠慮お願いいたします。

☆お問合せ

・中村邦生の会

TEL03-5310-5690

・喜多六平太記念能楽堂

TEL03-3491-8813



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

*JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅下車、徒歩7分